

学習指導要領		田無高校 学カスタンダード
(1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史 歴史の舞台としての自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。 イ 日本列島の中の世界の歴史 日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。	・人類は、自然環境の制約を受けると同時に、自然環境に積極的に働きかけて適応してきたことを理解し、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付く。	
	(2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。	・東アジアが主にモンスーン気候地帯に属し、農耕を中心とした生業が営まれてきたことを知る。 ・殷の成立や甲骨文字が漢字の起源となったことを知る。 ・秦・漢王朝の成立と統治体制の特質、周辺諸国との朝貢関係について知る。 ・内陸アジアの大半が乾燥地帯であり、草原とオアシスで活動する遊牧民とオアシス民とが共存・共生の関係にあったことを知る。 ・唐が支配体制を整え、周辺諸国との間に安定した関係を結び、東アジア世界や内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したことを知る。 ・南アジアの地理的特質を理解し、インダス文明の特質やヒンドゥー教、カースト制度について知る。 ・仏教の成立と諸地域への伝播を知るとともに、南アジアの仏教がヒンドゥー教に吸収されて衰退していったことを知る。 ・東南アジアの諸民族が、南アジア文明や中華文明の影響を受けながら国家を誕生させたことを知る。 ・西アジアの地理的特質を理解し、大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業が展開し、オリエン特文明が生まれたことを知る。

学習指導要領	田無高校 学カスタンダード
<p>イ 結び付く世界と近世の日本</p> <p>大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成</p> <p>産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六十進法や暦など現代まで影響を与えているものがオリエント文明で生まれていたことを知る。</li> <li>・ムハンマドの活動を通してイスラーム成立の背景と特質を知り、「コーラン」や六信五行など、イスラーム教の特徴を理解する。</li> <li>・地中海世界の地理的特質を理解し、ポリスを中心とするギリシア文明が形成されたこと、ギリシア文明がアレクサンドロスの遠征で西アジア一帯に伝えられたことを知る。</li> <li>・都市国家から出発したローマが大帝国に発展したことや、キリスト教の成立と展開を知る。</li> <li>・明の朝貢体制や清帝国の統治のあり方を、北虜南倭<small>ほくりよなんわ</small>や「鎖国」政策などと関連付けて理解する。</li> <li>・イスラーム専制王朝のティムール帝国、オスマン帝国、ムガル帝国の特色を知る。</li> <li>・15世紀後半以降のアジア・アメリカ・アフリカに対するヨーロッパの対外進出とその影響について知る。</li> <li>・ヨーロッパ、西アフリカ・アメリカを結ぶ三角貿易が発達し、西ヨーロッパを中心とする大陸間分業体制が確立したことを知る。</li> <li>・ヨーロッパに主権国家体制が形成され、オランダ・イギリス・フランスなどの国々が有力となったことを知る。</li> <li>・世界商業の展開と日本の関係をまとめ、16世紀からの交流が日本に与えた影響を理解する。</li> <li>・イギリス産業革命における世界的な背景や繊維部門の技術革新、交通革命、産業資本主義の確立を知る。</li> <li>・産業革命の結果発生した労働問題や社会問題を理解する。</li> <li>・13植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を、諸外国の動きを含めて理解する。</li> <li>・フランス革命の勃発<small>ほっぼつ</small>から進展の過程を、革命を主</li> </ul>

学習指導要領		田無高校 学カスタンダード
(3) 地球 社会 と 日本	<p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p> <p>ア 急変する人類社会 科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。</p>	<p>導した社会層の変化に着目しながら理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナポレオンの国内政策と征服活動について理解する。</li> <li>・ラテンアメリカ諸国の独立の経過を理解できる。</li> <li>・ウィーン体制の成立から動揺・崩壊の過程を理解する。</li> <li>・1848年に起こった一連の革命・民族運動の経緯を理解する。</li> <li>・東方問題とロシアの南下政策について理解する。</li> <li>・イタリアとドイツの統一運動の過程を理解する。</li> <li>・アメリカ合衆国の領土拡大や南北戦争後の経済的発展について理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オスマン帝国が国内の民族・宗教的対立とヨーロッパ諸国の干渉で衰退していったことを知る。</li> <li>・イギリスによるインドの植民地化が進み、インド大反乱後にムガル帝国が滅亡し、イギリス支配下でインド帝国が成立したことを知る。</li> <li>・東南アジアではオランダ・イギリス・フランスによる植民地化が進み、ヨーロッパ諸国が大規模なプランテーション経営を展開したこととその影響を理解する。</li> <li>・中国ではイギリスを先頭とするヨーロッパ諸国の進出が強まり、アヘン戦争・アロー戦争などを通じて半植民地化が進行したことを知る。</li> <li>・開国した日本が明治維新を通じてヨーロッパ文明の導入と近代化を進めたことを、対外政策とあわせて理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀後期の科学技術の発達が、欧米諸国で第二次産業革命の進展を促し、企業による寡占化と資本の集中・集積が進んだことを知る。</li> <li>・19世紀後半、ヨーロッパからアメリカやオセアニアへの大規模な移住が見られたことや、中国や南アジアなどから移民労働者が大量に世界の労働力市場に供給されたことを知る。</li> </ul>

学習指導要領	田無高校 学カスタンダード
<p>イ 世界戦争と平和</p> <p>帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国が工業製品や資本の輸出先を求めて世界各地に進出し、植民地や勢力圏の獲得競争を展開したことを知る。</li> <li>・第一次世界大戦の勃発に至る経緯を知るとともに、第一次世界大戦が総力戦としての性格をもっていたことを理解する。</li> <li>・ロシア革命の過程と、それによって成立したソヴィエト連邦が世界に与えた影響について知る。</li> <li>・ヴェルサイユ・ワシントン体制下で進んだ国際協調の流れを理解する。</li> <li>・1920年代のアメリカ合衆国の「永遠の繁栄」と呼ばれた政治・経済の成熟を理解する。</li> <li>・大衆の政治参加がイタリア・ドイツでファシズムを生むなど、当時の国家や社会、文化に大きな影響を与えたことや、同時期に日本の軍部の台頭やソヴィエト連邦におけるスターリンの独裁が生じたことを知る。</li> <li>・第一次世界大戦後に、中国での五・四運動、インドでのガンディーや国民会議派による運動など、アジアの各地で民族運動が発生したことを知る。</li> <li>・世界恐慌が資本主義国に深刻な打撃を与え、アメリカ合衆国のニューディール政策やイギリスのブロック経済政策など、各国で様々な恐慌対策がとられたことを知る。</li> <li>・世界恐慌の深刻な影響を受けた日本・ドイツ・イタリアが満州事変や日中戦争、ラインラント進駐などを起こしたことを知る。</li> <li>・第二次世界大戦について、ヨーロッパの戦争から始まり、太平洋地域に戦争が拡大し、戦場が広域化していった過程、核兵器がもたらした甚大な被害、戦争の様相が多数な民間人を含む膨大な犠牲をもたらしたことを知る。</li> </ul>

学習指導要領	田無高校 学カスタンダード
<p>ウ 三つの世界と日本の動向</p> <p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題</p> <p>1970年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p> <p>オ 持続可能な社会への展望</p> <p>現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米ソ両国が核兵器の力を背景にそれぞれ経済協力と集団安全保障の体制を樹立して自陣営の強化を図る中で、冷戦体制が非ヨーロッパ世界にも拡大したことを、ドイツの東西分断、中華人民共和国の成立、ヴェトナムの情勢、朝鮮戦争などを通して理解する。</li> <li>・第二次世界大戦後、民族独立運動がアジアからアフリカへと段階的に波及し、1960年代には植民地の大半が独立を達成したことを知る。</li> <li>・アジア・アフリカの新興独立国の多くが慢性的な貧困に苦しみ、先進諸国との経済格差が拡大したことを理解する。</li> <li>・キューバ危機を契機に米ソの緊張緩和の方向が現れ、核兵器の拡大を制限する交渉が始まったことを理解する。</li> <li>・1970年代に入り、アメリカ合衆国主導の国際通貨体制が衰えて変動相場制に移行し、二度の石油危機が欧米諸国や日本に大きな打撃を与えたことを知る。</li> <li>・先進工業国で、省エネ対策、代替エネルギーの開発、先進技術開発が進む中で、貿易摩擦が激化したことを理解する。</li> <li>・冷戦終結後の国際経済の連携の動きの中で、EUやASEANなど地域統合や地域協力を目指す動きが世界各地で進行していることを知る。</li> <li>・冷戦終結後に激化した内戦や、第二次世界大戦直後から続いているパレスチナ紛争などの地域紛争が世界各地で頻発していることを知る。</li> <li>・地球の温暖化や大気汚染、森林の消滅などの環境や資源・エネルギー問題が地球世界の切実な課題であることを知り、これらの問題の歴史的背景を理解する。</li> </ul>